



Earth Rise

No. 1 1

平成 27 年 8 月 10 日(月) 発行

矢掛高校の活動や地域の様子・E S D 等について発信していきます。

岡山県立矢掛高等学校長 川上公一



本校やかげ学の取組が、「広がるキャリア教育(普通科高)」として山陽新聞全県版に取り上げていただきました。ありがとうございます。

普通科高 進路意識させ意欲喚起

広がるキャリア教育

県内の普通科高校で、生徒の職業観を育むキャリア教育が広がっている。従来は学習時間の確保を優先する傾向が強かったが、将来の進路を意識させることで、意欲を引き出す狙い。産業界や地域と連携するなど、各校が知恵を絞っている。(長田憲司)

キャリア教育の推進は 講座は1期生の橋尾卓現行の高校学習指導要領 巳さん(岡山市役所勤務)に明記されているものらが呼び掛け、弁護士、の、普通科の多くは大学 銀行員、建設会社社長な受験対策を重視し、工業 24人が講師を務めた。や商業系の高校に比べて 参加した1年生からは立ち遅れていた。「文理選択の前に、やり

そうした中、岡山市南 たいことを見つけないければ区芳泉の芳泉高は6月下旬、同窓会とタイアップした職業観育成講座を初めて開いた。 「厳しい判断が求められる仕事だが、患者を救えた時の喜びは大きい。 未来を見据えて今やるべきことを考えてほしい」。 同校OBの救急医は教壇から力を込めた。

必修設け、先行

「キャリア」という必修科目を設けて先行してきたのは倉敷南高(倉敷市吉岡)。校外に出向いて地域の課題を探し、解決を提案する授業が特徴だ。文化祭では「美観

産業界や地域と連携 O B 講座、事業所訪問…



卒業生から仕事の話聞いた芳泉高校の職業観育成講座

高まる」という。このほか、朝日高(岡山市中区古京町)は企業幹部や大学教授らを招いた講演会を年十数回実施。青陵高(倉敷市羽島)は約30カ所の事業所訪問で現場の空気に触れている。

大学全入時代

背景にあるのは、大学の募集定員が入学希望者を上回る「大学全入時代」の到来だ。高校関係者は「無理をしなくてもどこかの大学に入れるため、意欲が高まりにくい生徒もいる」と指摘する。

地区を世界遺産にするにようになったと話す。は」といったテーマで討論する。 矢掛高(矢掛町矢掛)は小学校や福祉施設で週

山下陽子校長は「地域の人の助言や批判に刺激を受け、主体的に学ぶ気持ちは養われている。進路は「実習後は他の授業へ移行にも積極性が見られる意欲が増し、集中力がしたい」としている。